

虫食いあり | 以下 汚れあり



○らろての伊字九

○無人ト尸

○千架の侍ちを

○今西が田文

○奴王堀

○海河まのひち

○三つ

○顔白の物語





伊子丸

伊子丸イコジマ之清人イコジマ名海也堂イコジマと云師の池野秋平大雅堂
 海イコジマ不イコジマ倣イコジマて丸イコジマ而イコジマ段イコジマと云山水イコジマ不イコジマ名イコジマと得イコジマり好古日録末云 伊子丸
 伊海父嘗海外イコジマ貿易イコジマ一夜東海洋中イコジマ之男子イコジマ生イコジマト夢イコジマ
 家イコジマ遷イコジマレ妻男子イコジマヲ安産イコジマス即夢イコジマノ夜也故海イコジマト名イコジマツケ奉イコジマル
 守イコジマ亨保十年イコジマ廿八番イコジマノ船イコジマニ乗イコジマテ始イコジマテ長崎イコジマニ来イコジマリ延亨中イコジマ
 至イコジマリ廿餘年イコジマノ間性来イコジマス其寫イコジマス書畫世上イコジマニ賞イコジマセラル取風
 韻イコジマアリ印行イコジマ論イコジマ纂録イコジマ海書イコジマスル
所也 賦法 愛スベシ と思イコジマテ伊子丸イコジマ吉野山イコジマノ閑居
 在イコジマル心イコジマ如イコジマフクモウイコジマツの妻イコジマをめて居イコジマル日本イコジマノ倭イコジマノ来イコジマ物イコジマト
 長崎イコジマノ志イコジマヲあつてイコジマト山イコジマヲあつて病イコジマト死イコジマリト云伊子丸
 吉野山イコジマニあつてめて 世イコジマノ畫イコジマあるも 伊子丸イコジマト云

○無人嶋之古文

輜軒小録云。先年南方より橋を築きて江戸への風吹放
 らし極南の嶺より其後飯り此由より官へ申上り其様子
 とつづの承りありと云。延寶三年詳小土地海中の路程を
 記し外圖二枚有り其是と無人嶋と云。其圖記より本通春
 より是と借写し同年四月五日小官船豆州下田を出帆し七日小
 八丈嶋に付九日晡後小八丈島と出海路十里と云。後年昔々嶋に付
 夫らと或東或西辰巳亥午未の間を差を行く間十里七里三里
 の間所より小島あり極南の大嶋廻り十九里其地形半環の如く西
 北に向濤あり其東北小廻り五里と七里あり官首より江戸房州邊
 まで南より東より已午の間を中心三百七拾二里五丁此所謂

無人嶋、琉球國其正南小中、六百里七百里も有へし、何れ天文
 生を伴ひ行ひ、北極地を過り夏廿七度赤道の北廿七度云
 々云々其地木見え成る木餘多樟小似し木檜椰子さきく
 檜木あり檜樹の在り高二十尋も有木あり鳥多くあり日本より
 見羽の鳥多し檜木ありや木餘多し都て魚鳥ともいふ也
 何も手取不し、亦路を八丈あり東南六七町、三三程のあり
 茅や生茂り居人あり向き有て形白鳥如し羽先長八尺
 余り有り是れ人を畏れし國語をな鶏鶴の類を有言也其
 年の六月五日本宮へ出たり日負十三日歴り十七日下田小の
 とき書付の奥に嶋谷市左衛門中屋庄左衛門の昔の嶋は長崎の
 路の舟行の燬煉者と云ふ

千葉蓮之事

良云此冊唇寫の折節井上毅齋氏の留來りて話に江州金嶺郡
 小田中村をあり其土直家田中氏園中に池有珍き蓮と云ふ傳へ
 其様子を尋ふに日才四尋も有一茎の上九の華あり三葉千
 葉より咲く小勿蓮と或七或三の中元の頃より咲初八月上旬を
 咲く其花落るとく来年子を結あり万葉蓮と云ふ也或云此
 少く咲切らぬと即群芳譜に記す千葉蓮と標し分註云花山
 有池産千葉蓮花服之羽化今人家亦有之然頭重湯茶
 多難完也と云ふ詳ふるけいとも大様世あり

田文之事

良云此棋津國奥三嶋郡南郷村小曾根庄の内之世所、春日社あり

社司今西宮内と云其家古東古證文と多くあり此中母
 田文と云の項今世ふくむと云紙の如くは一寸餘引取に
 引く亦横四寸有る山川田畑墓魚と云横五寸有る其
 取初王文治五御檢註加納田畑取帳とあり前々水郷御
 取復取とあり封の中を初旨田公田と云と云事有り
 行世不表打折本に直と云と云東鑑太平記云大田之
 事有り今の人如何様物と云事と不知世證文と云文と云
 之と云わけは古東是田文と云傳也今世水帳と云類
 と見也初旨田と云事と云文と云有と云不輪田と云事
 記憶女一人受得て廻持せし田地の受成べしと云人推量
 存有り右享保十九の冬紀府の學者岩橋氏望主と云

續後集卷
 三十一
 初全千百姓
 平野郷事主
 曲上地所其
 五以上年七
 百餘亦能取
 符六位百十
 百十

益須郡
 清盛の
 利少

平野郷の土橋元信氏今西氏縁有故い道一岩橋氏物語
 今西族人正立匠人云亦此を知右の次平に河内道明寺の古物と
 見由物語より道明寺菅家伯母マ尼有る其時より傳來
 の古寶餘多あり此中象舟の形あり菅公遺物の由云傳
 幅二寸長二寸厚四分程本少しせし頭少圓有りと先年
 平野行游土橋氏語郷日言き帳有り其中花十子段錢
 あり云事あり是も昔日文卷あり何代と云之不惜
 是事の名目と云かく幸貴物と云云云に云ことなり

○ 牧王堰之事

清盛の寵愛牧王を江洲益須郡中頃より居其村灌漑の
 利少と云と其かみ幸貴愛の時分清盛より堰之堀

破損あり

水がら使て河を其堰今も残りて益須川と決て三里程間水を
 取て三村の潤と名一日の間成流と云付て田(取)の傍(湖)水
 流る寺有て女王妓女と追喜と所(老)老(今)もて女王の
 忌日は精進と云り賤婢の身なり後世利澤と後(藤)云
 堤とも名と齊(西)苑院(紗)石もまらとも木村伯倫其村の人
 向の故(詳)も女(く)し(ん)ん(ん)ん

○滝利記

羽州秋田郡比内縣宋鑑之治奈比内郡アリ十狐邑今改稱城を
 滝利與市則賴、与市郎義實子也清和源氏後胤鎌倉
 之時滝利与市義遠末孫也則賴生國甲斐人也如何ル
 故之真洲子津輕住不足ヨリ安部氏秋田屬也紋
 十本骨扇ナリ方後雅金改△秋田土崎城主岩部氏秋田城
 介實孝岩部貞任末孫之貞任、奥羽二州ヲ押領之南部
 盛圖厨屋城住也、或勢強大之朝廷、年不順故、後冷
 泉帝庚午五年頼義父勅ニ依テ貞任ヲ征伐セリ貞任
 婿田子任九十三ニテ父高ク討死セリ二男高生三歳ナリ
 乳母懐ニ津輕藤家ニ出奔也、其後十三歳ヲ領

年中尊氏ヨリ秋田ヲ拜領ス榑山城ニ移シ實季迄二百餘年
 永慶ノ兵亂湊ノ城主安東九郎友季ヲ討テ湊ノ城ニ移ル
 其後淺利ノ安部氏ヨリ比内ヲ贈リ之故比内移ル比内ノ城ハ
 今比内井田村在リ大永ニ至キ年十瓶也大日堂ヲ建テ
 彼本尊ニ慈覺大師作ノ鳳凰山玉林寺ヲ建テ天文年
 中十瓶城ヲ築キテ移ル其孫仁井田家臣ヲ置リ玉林寺跡
 今獨鈷邑ニシテ大館東一里餘ニ當テ鳳凰山ト云テ高山有
 其麓ニ玉林寺ノ旧跡トテ周圍ノ生垣今ニ在リ城地ニ大館ニ
 移セリ以後十瓶村ヨリ寺ニ移セルガ未詳山ト号ル山ヨリ
 稱セルカ今玉林寺大館城下ニ在リ淺利則頼勝頼ニ代
 牌アリ祈禱所ハ林光坊ト云リ其後金剛山ニ言テトラス

天合宗十九ヨシ淺利家滅セテ後寺僧モナリシヤ禪僧住
 余禪寺ト云 大智堂別當直三云云云川石六男ノ其子
 孫相繼テ職トス 則頼天文十九庚戌年十瓶村ニ坐テ
 法名明庵珠光大居士 則頼弟守定則北比内ノ押トテ花園
 村ニ居住天正二年三月廿日隣邑山田ニテ討死法名雲定公
 大禪定ハ其石碑今ニ在リ其子息左近介定友又善提ノ為ニ
 岩木山信正寺ヲ建テセリ地合數ハ山田邑住勝山三郎ト云
 意該ヲ扶テ今我ニ及テ其始ヲ詳ナラス其後淺利家ヨリ
 勝山トセス今山田邑勝山ハ勝ノ其重ヲ祭ル
 淺利民部大夫源勝頼又則頼卒去以後城地ヲ比内長岡ニ
 移テ今其旧跡ヲ長岡野ト云或書ニ扇ノ長岡ト云ル此地地海

傍九坂之今長園六幡十社有り、後利古城稱由。

後利城介實季上漆土崎城を九郎ト合戦及致三勝頼頼高跡
ニテ實季ニ相從フ或書ニ大館淺利ト記々此勝頼長田ヨリ
大館城ヲ築テ移ルト見エテ然レ其事不分明ノ實季
旗下淺利ニ勝レ大臣十三、漆九郎ト内録アルニ因テ何トク不紀
成リ天正年中漆九郎ヲ責為メ後方合戦及シ去然レ所
城介討男ヲ以テ密ニ淺利家老片岡駿河守等ニ及リ忠ナキ
シ、淺利ヲ討取テ、淺利が領知油谷寺ニ配分サスニト約セリ
致ニ討ヲ以知賄扱ヲ入對面及ノ時供ノ諸士其事ヲ知テ
駿河セリ、後利其場ヲ遁テ、妻子ヲ連テ大館(志)府
田ノ道以正興見寺前小路ノ底ニ片山駿河守忍ビ居、鎗ヲ

馬ヨリ突落セ、則頼が首ヲトシ、妻子營々モリ米代川隈ニ草木
茂ク荒れニ隠ル、所ヲ探リ出サレテ河原ニテ殺言セラル、其隠レシ
田原府留神明九多御年洗石井有リ、其外十九由、片岡始松澤
三喜即等、淺利が跡日ヲ實季ニ獻メ約事地ヲ乞フ、實季
彼等ヲ追放セリ、善守殺セ、飛トメ、淺利形部頼重比内
安齋村城代タリ、勝頼、權十郎頼廣ヲ嗣子ト為シ、舎兄
權十郎慶長三年大坂ニテ移セテ、及頼重、祐田實季カ為ニ
并籠ニテ討死ス、九兵衛正頼比内十二所ニ城代トス、然レ三南郡
家臣櫻井、兵部ガ為ニ移ラレ、
淺利民部大輔勝頼カ嫡男、長孫、赤田尾ヨリ、味曾内色(尾
行)流、海流ヲ長孫トトテ、カヲ振キ向、杖ニツキハ、手地ニ各

足指ヨリ太刀ヲ割其筋ヲ死ス二勇与帝頼平南都志
 津雅^ニ為リ右京左衛門尉^ニ居リ其為信深愛懐^ク且數
 百騎^ヲ勢^ヲ以比内大飯^ノ城ヲ攻^ル則大館^ノ城^ニ頼平^ヲ居住
 セシ先祖家督ヲ繼シム故^ニ所^ノ隱^レ居^ル臣等馳^テ告^ル
 自然^ト比内^ヲ當^テ奪^リ居^ル仍^テ家臣^ヲ分^シケル先^ニ大飯^ノ城^下
 旗^本十^六百^廿人^品畧^シ給^ル小^幡色^給人^十五^人平^人釋^也
 色^給人^事人^山籠^毛給^人甲^十人^味咄^内色^仲向^甲五^人遊^也
 法^度ヲ立^テ政^ヲ正^シク又^祖執^ニマサレ^リト大^館城^郭其
 外^所之^代ニ^カハ^リシ^ト云
 淺利家再興^ノ策^ヲ謀^ル也^ル實^多ク^テ好^リヨ^シ今^根葉^ノ
 絶^タニ^後世^迄子^孫傳^フ終^ラシ^ト文^祖四^年己^未八^月廿^八日^方

軍^ヲ出^シテ^合戦^{タイ}ト^ス同^九月^七日^實季^米代^リ過^リ
 出^張セ^リ淺^利勢^ノ懼^レ油^取セ^シ淺^利兵^モ此^川葉^内
 ヲ^知レ^リ夜^中潛^ニ淺^利ノ^邊リ^往田^實季^軍中^ニ夜^討キ
 大^ニ實^季代^リ勝^リス^實季^再軍^兵ヲ^調ハ^シ討^出シ^テ淺
 伏^兵ヲ^討テ^大ニ^是ヲ^敗ル^實季^再軍^兵ヲ^失ヒ^憐惜^ナク

○肝煎を以て里正保官の事と云ふは仲人事也
 云ふと云ふ天の村君様も君様の徳所と申す外は
 國も女も何と云へば北條五代記北條子也伊豆の事多
 分ふは五里十里の者皆ありて事也是れ人々
 ありて先の中守等と申す肝煎何と云ふ事也

破損あり

○孝子物語

孝子といふは古の孝といふと百歳中より後り出て屋敷二軒又
 の内へ画(か)りつゝ。國(くに)のしつゝ。世(よ)を孝(こ)を以(も)つゝ。世(よ)を孝(こ)と
 人(ひと)は孝(こ)を以(も)つゝ。孝(こ)人(ひと)あるは孝(こ)に
 三(さん)河(か)の國(くに)郡(ぐん)小(こ)布(ふ)田(た)の虎(こ)女(にょ)中(ちゆう)孝(こ)子(し)の村(むら)の碑(いし)ありて世(よ)に
 初(はつ)代(だい)の中(ちゆう)近(ちか)き世(よ)に書(か)す。銘(めい)廣(ひろ)く言(こと)を孝(こ)子(し)と云(い)ふ事(こと)を孝(こ)子(し)と云(い)ふ事(こと)を
 近(ちか)き世(よ)に孝(こ)子(し)あり事(こと)を孝(こ)子(し)と云(い)ふ事(こと)を孝(こ)子(し)と云(い)ふ事(こと)を孝(こ)子(し)と云(い)ふ事(こと)を
 梓(す)行(ゆ)り日本(にっぽん)孝(こ)子(し)傳(でん)の内(うち)多(おほ)く西(にし)と東(とう)と木(き)村(むら)甚(こ)助(すけ)孝(こ)子(し)と云(い)ふ事(こと)を
 見(み)介(けい)備(び)中(ちゆう)國(くに)浅(あ)い郡(ぐん)常(つね)井(い)村(むら)と云(い)ふ事(こと)を孝(こ)子(し)と云(い)ふ事(こと)を孝(こ)子(し)と云(い)ふ事(こと)を
 孝(こ)子(し)と云(い)ふ事(こと)を孝(こ)子(し)と云(い)ふ事(こと)を孝(こ)子(し)と云(い)ふ事(こと)を孝(こ)子(し)と云(い)ふ事(こと)を孝(こ)子(し)と云(い)ふ事(こと)を
 見(み)介(けい)心(こころ)と云(い)ふ事(こと)を孝(こ)子(し)と云(い)ふ事(こと)を孝(こ)子(し)と云(い)ふ事(こと)を孝(こ)子(し)と云(い)ふ事(こと)を孝(こ)子(し)と云(い)ふ事(こと)を

人の事とて母に其介在を申さるる事なれば
 事かやむ事なれば母上より心離れん事なれば
 しかれども長にわたる事介在を申す事は母上
 兵田の事にあつては幸にして後見ありはた
 也其由の因らざる事なれば代りて作らば
 介在の事なれば母上より其由の事なれば
 是即ち其兄の事なれば多し其由の事なれば
 不孝の事なれば母上より其由の事なれば
 暗に其由の事なれば母上より其由の事なれば
 其由の事なれば母上より其由の事なれば
 其由の事なれば母上より其由の事なれば

人の事とて母に其介在を申さるる事なれば
 事かやむ事なれば母上より心離れん事なれば
 しかれども長にわたる事介在を申す事は母上
 兵田の事にあつては幸にして後見ありはた
 也其由の因らざる事なれば代りて作らば
 介在の事なれば母上より其由の事なれば
 是即ち其兄の事なれば多し其由の事なれば
 不孝の事なれば母上より其由の事なれば
 暗に其由の事なれば母上より其由の事なれば
 其由の事なれば母上より其由の事なれば
 其由の事なれば母上より其由の事なれば

破損あり

ありあてを基田を築き胡麻とよりの田をとりたれ
 ありを流す中よりある田をかやうとつ時と
 降てこひて高介が田に築くうりへすやを者徳の
 徳を人を見たりといふ事、是は兄とせうつとせ
 罪を承けつゝ人を知りて是と信するを徳の人と
 基介ありて是を承けつゝ人を知りて是と信する
 人を知りて是を承けつゝ人を知りて是と信する
 徳の人とせうつとせ、是は兄とせうつとせ、
 備前守君羽林次將花平公と史録の備中の流口と且
 三つうりたれ、高介ありて是を承けつゝ人を知り
 徳の人とせうつとせ、是は兄とせうつとせ、

作り事田とせよ、高介ありて是を承けつゝ人を知り
 徳の人とせうつとせ、是は兄とせうつとせ、

善徳惣大夫

備前国岡山州屋敷のり、高介ありて是を承けつゝ人を知り
 徳の人とせうつとせ、是は兄とせうつとせ、

虫食いあり

